

第2章 現況と課題

1 田辺市の概況

1-1 広域的な位置づけ

田辺市は、紀伊半島の南西部、和歌山県の南部に位置しており、有田川町、日高川町、印南町、みなべ町、上富田町、白浜町、古座川町、新宮市、奈良県十津川村、野迫川村に接した東西約45km、南北約46km、総面積約1,026km²の市であり、紀南地域の中心都市となっています。

交通については、海岸部に沿ってJR紀勢本線が通っており、JR紀伊田辺駅～大阪市内までの所要時間は約2時間、南紀白浜空港から東京国際空港（羽田）まで約1時間となっており、また、平成19年11月に近畿自動車道紀勢線の南紀田辺インターチェンジが開通したことにより、京阪神地域・関西国際空港まで車で約2時間と大都市への交通の便が比較的便利な市となっています。



【田辺市の位置】



1-2 自然的条件

(1) 地形

田辺市は西よりの海岸部に都市的地域を形成するほかは、約 9 割を森林が占める中山間地域となっており、主な水系としては日高川水系、富田川水系、日置川水系、熊野川水系の 4 水系を抱える自然環境豊かな市となっています。

地形としては、鉾尖・牛廻山地、果無山地、高尾山地、大塔山地からなる山地部、市街地北部の田辺丘陵や東部の白浜・朝来丘陵などの丘陵地、市域を流れる芳養川、稲成川、左会津川、右会津川、富田川、日高川、日置川、熊野川によって形成された低地からなっており、低地、山地、丘陵地との間はそれぞれ河岸段丘となっています。

(2) 気候・気象

気候は海岸部について黒潮の影響を受け、寒暖の差が比較的小さい温暖多雨な太平洋型気候となっています。また、山間地については、1,000m級の山々がそびえていることから寒暖の差がある内陸型の気候となっており広範囲な気候となっています。

(3) 自然災害

田辺市に大きな被害をもたらした災害は、台風による暴風雨と前線による集中豪雨が多く、浸水、自然斜面や人工斜面の土砂災害等が発生しています。

また、南海地震（昭和 21 年）やチリ地震（昭和 35 年）など地震による津波災害も発生しています。

【主な災害履歴】

発生年月	事項	被害状況
平成元年 8 月	台風 17 号	道路冠水（旧本宮町）
平成元年 9 月	集中豪雨	道路冠水（旧本宮町）
平成 2 年 9 月	台風 19 号	道路冠水（旧田辺市） 床上浸水：141、床下浸水：34（旧本宮町）
平成 2 年 9 月	台風 20 号	道路冠水、山崩れ：2（旧田辺市） 床上浸水：1、床下浸水：3（旧本宮町）
平成 3 年 9 月	台風 18 号	道路冠水、床下浸水：3（旧本宮町）
平成 4 年 4 月	前線による豪雨	崖くずれ：1（旧田辺市）
平成 4 年 5 月	前線による豪雨	家屋半壊：1、家屋部分損壊：2、崖くずれ（旧田辺市）
平成 5 年 6 月	前線による豪雨	土砂崩れ：1（旧田辺市）
平成 6 年 6 月	集中豪雨	公共土木施設被害（旧中辺路町）
平成 6 年 9 月	台風 26 号	土砂崩れ：2（旧田辺市）
平成 7 年 7 月	梅雨前線による豪雨	道路損壊：41、水路損壊：4、池決壊：2、頭首工：1、山崩れ：1（旧田辺市）
平成 7 年 10 月	集中豪雨	床上浸水：1、床下浸水：59（旧田辺市）
平成 10 年 9 月	台風 7 号及び集中豪雨	負傷者：7、家屋全壊：2、家屋半壊：24、家屋部分損壊：246、道路損壊：12、河川損壊：2（旧田辺市）
平成 21 年 7 月	集中豪雨	死者：1、軽傷者：1、家屋全壊：2、家屋一部破損：7、床上浸水：45、床下浸水：133

資料：田辺市防災対策室資料

1-3 社会的条件

(1) 人口及び世帯数

1) 人口及び世帯数の推移

田辺市の人口は82,499人（平成17年国勢調査）となっており、昭和60年以降人口減少傾向が続いています。特に旧龍神村、旧中辺路町、旧本宮町は減少が著しくなっています。

世帯数は、32,643世帯（平成17年国勢調査）で1世帯あたり人員は2.53人となっており、核家族化の傾向となっています。人口の推移と同様に旧龍神村、旧中辺路町、旧本宮町は減少傾向となっています。

【人口の推移】

		S 55年	S 60年	H 2年	H 7年	H 12年	H 17年	参考(H21.9末)
旧田辺市	人口	69,575	70,835	69,859	70,246	70,360	68,117	68,124
	指数	100	102	100	101	101	98	—
旧龍神村	人口	5,353	5,110	4,847	4,642	4,461	4,103	4,147
	指数	100	95	91	87	83	77	—
旧中辺路町	人口	4,636	4,343	4,027	3,863	3,710	3,450	3,335
	指数	100	94	87	83	80	74	—
旧大塔村	人口	3,512	3,351	3,181	3,285	3,246	3,259	3,184
	指数	100	95	91	94	92	93	—
旧本宮町	人口	5,054	4,624	4,229	4,123	3,869	3,570	3,495
	指数	100	91	84	82	77	71	—
田 辺 市 (合 計)	人口	88,130	88,263	86,143	86,159	85,646	82,499	82,285
	指数	100	100	98	98	97	94	—

資料：H17 まで各年国勢調査、参考は住民基本台帳

【世帯数の推移】

		S 55年	S 60年	H 2年	H 7年	H 12年	H 17年	参考(H21.9末)
旧田辺市	人口	69,575	70,835	69,859	70,246	70,360	68,117	68,124
	世帯数	21,390	22,281	23,057	24,873	26,320	26,652	28,747
	人/世帯数	3.25	3.18	3.03	2.82	2.67	2.56	2.37
旧龍神村	人口	5,353	5,110	4,847	4,642	4,461	4,103	4,147
	世帯数	1,631	1,595	1,627	1,669	1,635	1,605	1,759
	人/世帯数	3.28	3.20	2.98	2.78	2.73	2.56	2.36
旧中辺路町	人口	4,636	4,343	4,027	3,863	3,710	3,450	3,335
	世帯数	1,600	1,574	1,549	1,520	1,529	1,498	1,657
	人/世帯数	2.90	2.76	2.60	2.54	2.43	2.30	2.01
旧大塔村	人口	3,512	3,351	3,181	3,285	3,246	3,259	3,184
	世帯数	1,144	1,153	1,169	1,217	1,250	1,261	1,470
	人/世帯数	3.07	2.91	2.72	2.70	2.60	2.58	2.17
旧本宮町	人口	5,054	4,624	4,229	4,123	3,869	3,570	3,495
	世帯数	1,881	1,814	1,731	1,754	1,725	1,627	1,725
	人/世帯数	2.69	2.55	2.44	2.35	2.24	2.19	2.03
田 辺 市 (合 計)	人口	88,130	88,263	86,143	86,159	85,646	82,499	82,285
	世帯数	27,646	28,417	29,133	31,033	32,459	32,643	35,358
	人/世帯数	3.19	3.11	2.96	2.78	2.64	2.53	2.33

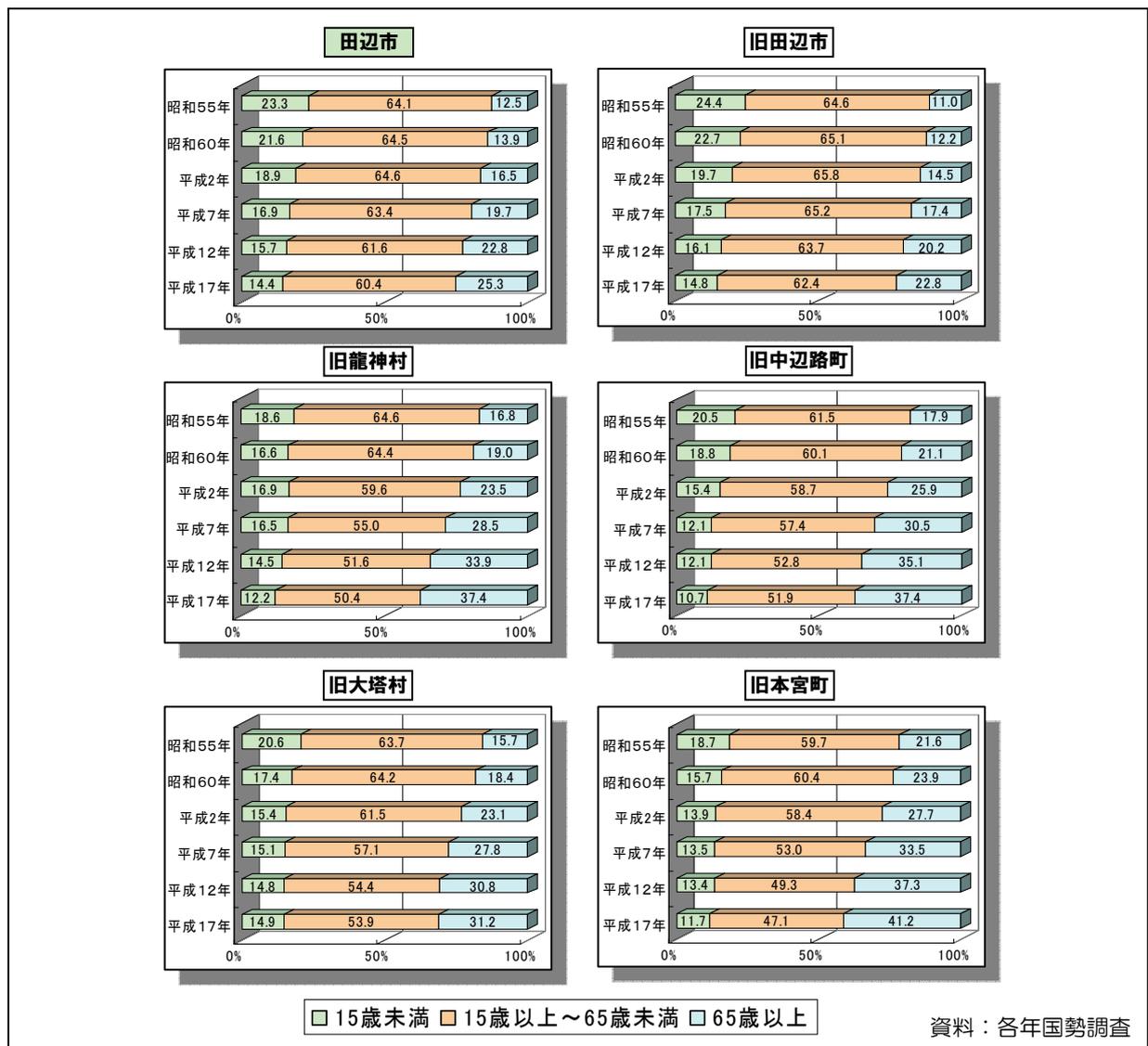
資料：H17 まで各年国勢調査、参考は住民基本台帳

2) 人口構成比の推移

田辺市の65歳以上の高齢者割合は、25.3%（平成17年国勢調査）となっており、年々上昇しています。全国平均では、20.1%、和歌山県平均では、24.1%となっており、高齢化率は全国平均や県平均より高くなっています。

旧市町村では、旧田辺市で22.8%と最も低く、旧本宮町の40%以上をはじめ、旧龍神村、旧中辺路町でも35%を超えていることから、都市地域との高齢化率の格差が大きくなっています。ただし、旧田辺市の中心市街地では、35%を超えており、中心市街地の高齢化が顕著になっています。

【年齢階層別人口の推移】



【参考：旧田辺市中心市街地の人口構成】

	人口	割合(%)
15歳未満	995	9.0
15歳以上～65歳未	5,961	54.1
65歳以上	4,062	36.9
合計	11,018	100.0

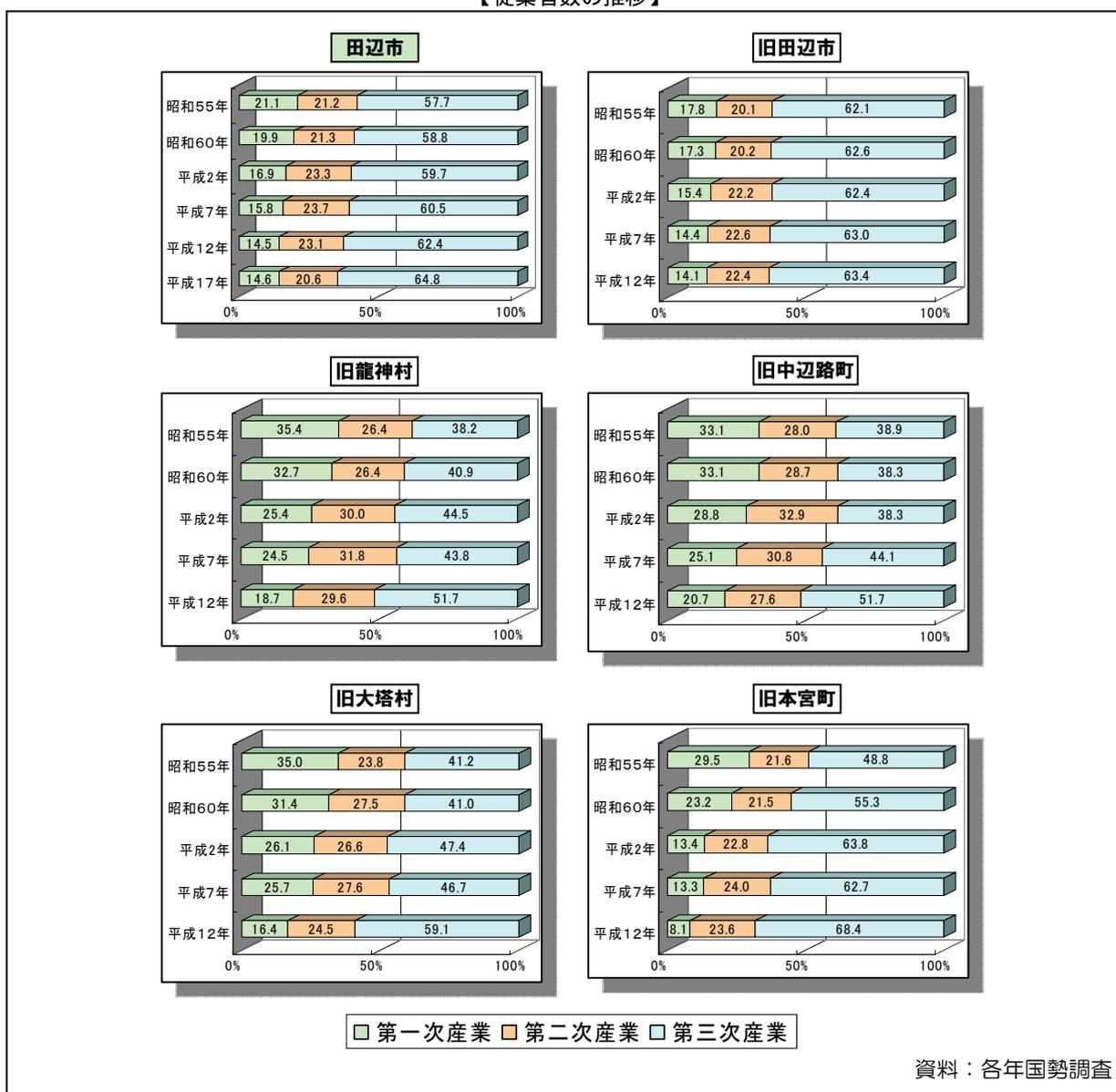
資料：住民基本台帳（H21.9）より

(2) 産業

1) 従業者数の割合

産業別の従業者割合では、第1次産業が14.6%、第2次産業が20.6%、第3次産業が64.8%（平成17年国勢調査）となっており、第3次産業が増加傾向、第1次産業が減少傾向、第2次産業が近年、減少傾向に転じています。

【従業者数の推移】



2) 事業所数・従業者数の推移

事業所数、従業者数はともに一時点まで増加したものの、近年は減少傾向となっています。また、1事業所あたりの従業者数は微増傾向となっています。

【事業所数及び従業者数の推移】

		S 61年	H 3年	H 8年	H 13年	H 18年
田辺市	事業所数(a)	6,203	6,298	6,249	5,975	5,691
	従業者数(b)	32,832	35,803	38,704	36,633	34,928
	(b)/(a)	5.29	5.68	6.19	6.13	6.14
旧田辺市	事業所数(a)	5,112	5,224	5,209	5,001	-
	従業者数(b)	27,848	30,420	32,918	31,326	-
	(b)/(a)	5.45	5.82	6.32	6.26	-

資料：事業所統計調査報告（～平成3年）、事業所・企業統計調査報告（平成8年～）

3) 製造品出荷額等・年間商業販売額の推移

工業では製造品出荷額等、商業では年間商業販売額の推移をみると、近年ともに減少傾向にはあるものの、平成19年にはそれぞれ増加に転じています。

【製造品出荷額等の推移】

(万円)

	H 8年	H 9年	H 10年	H 11年	H 12年	H 13年
田辺市	4,751,094	4,850,620	4,733,805	4,976,871	4,815,356	4,481,128
旧田辺市	4,068,469	4,192,193	4,204,577	4,437,204	4,354,508	4,041,945

	H 14年	H 15年	H 16年	H 17年	H 18年	H 19年
田辺市	4,311,861	4,311,965	4,068,349	3,949,636	3,392,641	3,709,959
旧田辺市	3,914,401	3,919,275	3,675,461	-	-	-

※平成17年を100とした国内卸物物価指数で補正
資料：工業統計調査

【年間商業販売額の推移】

(百万円)

	H 9年	H 11年	H 14年	H 16年	H 19年
田辺市	225,758	223,217	197,838	190,662	192,819
旧田辺市	218,019	215,465	190,549	184,548	-

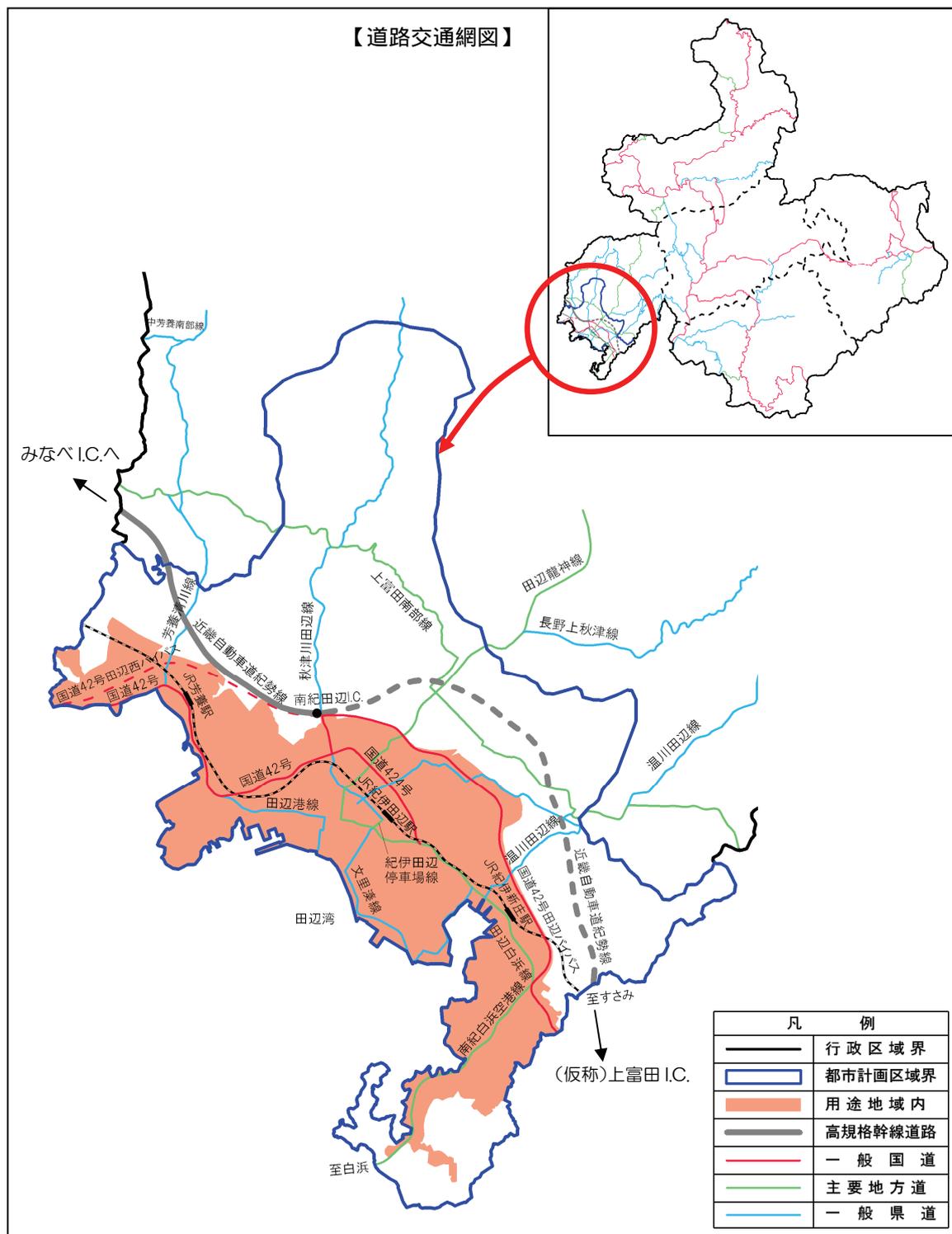
※平成17年を100とした全国（総合）消費者物価指数で補正
資料：商業統計調査

(3) 交通体系及び人の動き

1) 交通網

①道路網

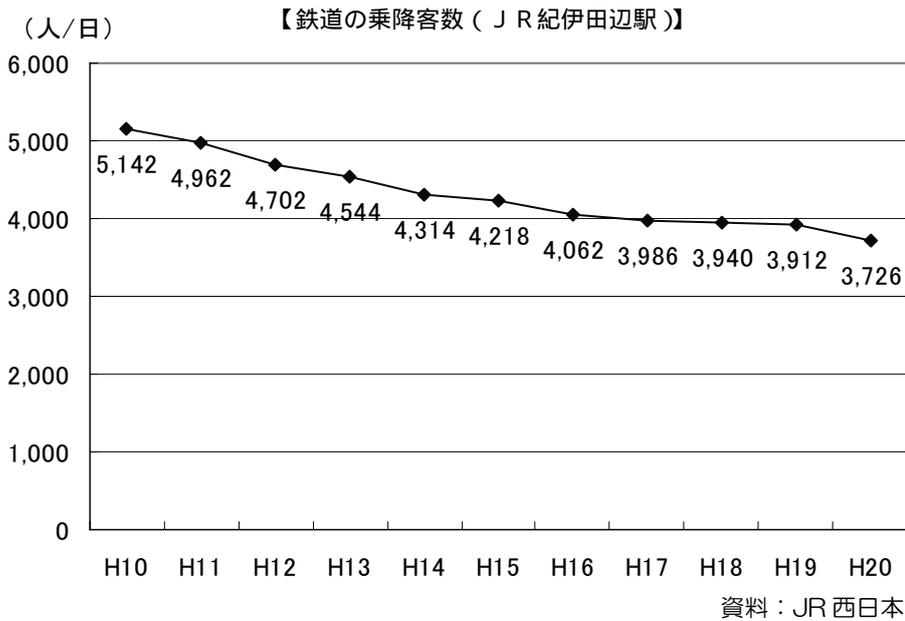
田辺市内には、一般国道、主要地方道、一般県道が市内外への連絡道路として網羅されています。都市部である海岸部の平野では、国道42号バイパスや国道42号、国道424号など主要な一般国道が集中しており、その交通量は非常に多いものとなっています。平成19年11月には、近畿自動車道紀勢線南紀田辺インターチェンジが開設され、交通の利便性が高まっています。



②鉄道

鉄道は、都市部である海岸部の平野に JR 紀勢本線が通っており、市内には駅が 3 駅あり、その中でも JR 紀伊田辺駅が主要な駅となっています。JR 紀伊田辺駅は 1 時間あたり上下線で最大 5 本の運行となっています。

JR 紀伊田辺駅の 1 日あたりの平均乗降客数は平成 20 年度で 3,726 人となっており、年々減少傾向となっています。



③バス

バスは龍神バス、明光バス、熊野交通、奈良交通がそれぞれ路線バスを運行し市内全般を網羅していますが、便数は少ないものとなっています。また、住民バスも運行し、交通不便地域の解消を図っています。

このほか明光バス、西日本 JR バス、和歌山バスが高速バスを運行しています。

【路線バスの運行状況】

	運行している路線バス会社等
旧田辺市	龍神バス、明光バス
旧龍神村	龍神バス、住民バス
旧中辺路町	龍神バス、明光バス、住民バス
旧大塔村	龍神バス、明光バス、住民バス
旧本宮町	龍神バス、明光バス、熊野交通、奈良交通、住民バス

2) 人の動き

田辺市居住の従業・通学者は約 4.3 万人であり、うち田辺市内への従業・通学者は約 3.6 万人と、全体の約 85%を占めています。

市内の動きをみると、基本的には、旧市町村内の居住者は同じ旧市町村内への従業・通学が多くなっていますが、旧中辺路町や旧大塔村では旧田辺市への従業・通学も比較的多くなっています。

田辺市外への従業・通学者は、旧本宮町が新宮市へ、旧大塔村が上富田町への従業・通学者が多くなっています。

【従業・通学先の状況】

			従業・通学先							合計
			田辺市	和歌山市	みなべ町	上富田町	白浜町	新宮市	その他	
常住地	田辺市	就業者+通学者	36,240	278	1,402	1,708	1,770	188	1,060	42,646
		割合(%)	85.0	0.7	3.3	4.0	4.2	0.4	2.5	100.0

資料：H17 国勢調査

【従業・通学先の状況】

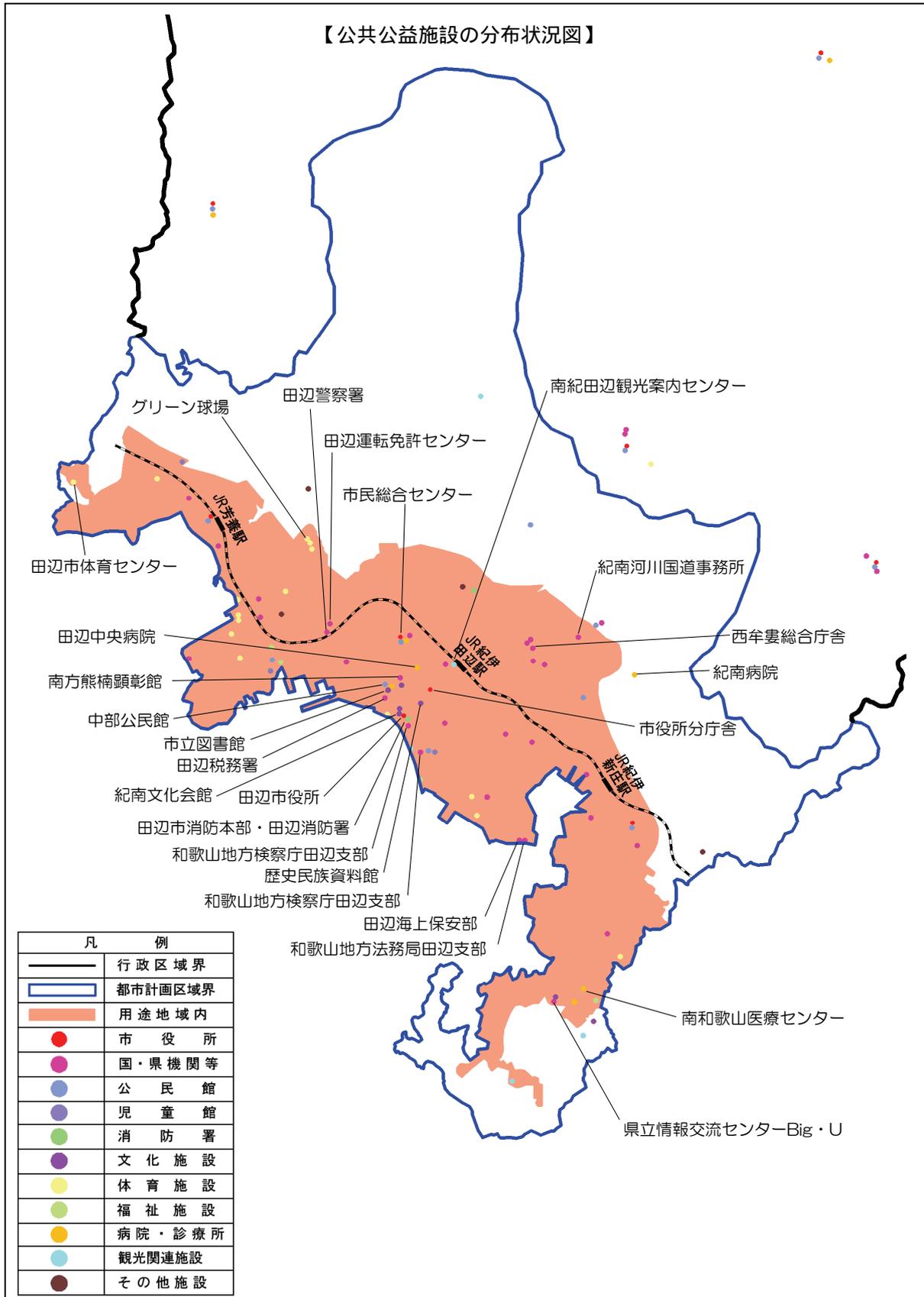
			従業・通学先												合計
			旧田辺市	旧龍神村	旧中辺路町	旧大塔村	旧本宮町	田辺市計	和歌山市	みなべ町	上富田町	白浜町	新宮市	その他	
常住地	旧田辺市	就業者+通学者	32,490	61	90	107	-	32,748	275	1,153	1,322	1,582	18	720	37,818
		割合(%)	85.9	0.2	0.2	0.3	-	86.6	0.7	3.0	3.5	4.2	0.0	1.9	100.0
	旧龍神村	就業者+通学者	106	1,994	-	-	-	2,100	-	60	-	-	-	89	2,249
		割合(%)	4.7	88.7	-	-	-	93.4	-	2.7	-	-	-	4.0	100.0
	旧中辺路町	就業者+通学者	238	-	1,232	51	-	1,521	-	-	140	71	-	47	1,779
		割合(%)	13.4	-	69.3	2.9	-	85.5	-	-	7.9	4.0	-	2.6	100.0
	旧大塔村	就業者+通学者	292	-	43	899	-	1,234	-	-	181	72	-	33	1,520
		割合(%)	19.2	-	2.8	59.1	-	81.2	-	-	11.9	4.7	-	2.2	100.0
	旧本宮町	就業者+通学者	-	-	-	-	1,228	1,228	-	-	-	-	159	140	1,527
		割合(%)	-	-	-	-	80.4	80.4	-	-	-	-	10.4	9.2	100.0
	田辺市計	就業者+通学者	33,126	2,055	1,365	1,057	1,228	38,831	275	1,213	1,643	1,725	177	1,029	44,893
		割合(%)	73.8	4.6	3.0	2.4	2.7	86.5	0.6	2.7	3.7	3.8	0.4	2.3	100.0

※田辺市外の市町については合併後の市町で整理

資料：H12 国勢調査

(4) 公共公益施設

公共公益施設は、用途地域内全体に様々な施設が分散して立地していますが、概ね市役所周辺に主な施設が集中しています。



(5) 観光資源

平成16年7月に世界遺産登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」及びキャンプ場、温泉地など、田辺市の地域特有の自然、歴史、文化、特産品等を活かした観光資源が市内全域に分布しています。

観光客数は、平成17年を頂点として減少傾向となっているものの、近年は回復の兆しがあります。観光客の内訳としては、宿泊客が減少傾向、日帰り客が増加傾向となっています。また、有料施設の利用状況は減少傾向となっています。一方で、平成17年度に整備された田辺扇ヶ浜海水浴場の来場者は、増加傾向となっています。

		H15	H16	H17	H18	H19	H20
田辺市	宿泊	421,128	444,158	410,231	380,577	400,354	404,407
	日帰り	2,204,094	3,204,103	3,753,472	3,200,046	3,447,427	3,133,542
	合計	2,625,222	3,648,261	4,163,703	3,580,623	3,847,781	3,537,949
旧田辺市	宿泊	180,299	179,709	160,056	151,280	173,306	178,642
	日帰り	633,529	677,900	761,376	793,281	787,726	782,285
	合計	813,828	857,609	921,432	944,561	961,032	960,927
旧龍神村	宿泊	67,538	71,890	69,130	66,927	66,639	63,859
	日帰り	594,610	675,544	631,701	608,511	533,875	519,766
	合計	662,148	747,434	700,831	675,438	600,514	583,625
旧中辺路町	宿泊	10,012	12,783	8,775	6,247	6,725	9,231
	日帰り	359,638	685,921	796,741	484,314	761,906	475,185
	合計	369,650	698,704	805,516	490,561	768,631	484,416
旧大塔村	宿泊	12,382	11,886	12,963	8,875	8,625	7,592
	日帰り	165,707	181,565	223,747	168,313	173,622	99,161
	合計	178,089	193,451	236,710	177,188	182,247	106,753
旧本宮町	宿泊	150,897	167,890	159,307	147,248	145,059	145,083
	日帰り	450,610	983,173	1,339,907	1,145,627	1,190,298	1,257,145
	合計	601,507	1,151,063	1,499,214	1,292,875	1,335,357	1,402,228

資料：各年観光動態調査

【有料施設観光客の推移】

(人)

施設名	H17	H18	H19	H20
田辺市立美術館	9,495	8,677	8,402	8,080
紀州備長炭記念公園	26,871	26,343	25,579	20,091
ごまさんスカイタワー	25,991	20,897	17,525	22,255
熊野古道 なかへち美術館	5,134	4,175	5,521	5,990
かもしか牧場	3,939	3,226	3,154	3,438
富里温泉「乙女の湯」	21,174	19,934	21,287	16,045
百間山溪谷キャンプ場	2,040	2,266	1,784	1,740
大塔青少年旅行村	3,800	3,042	3,009	3,525
クアハウス熊野本宮	21,609	19,897	19,450	20,427
渡瀬バンガロー	3,308	3,784	2,742	3,395
渡瀬緑の広場	1,630	1,594	1,525	1,472
川湯野営場木魂の里	13,306	11,242	10,318	10,114
合計	138,297	125,077	120,296	116,572

資料：各年観光動態調査

【入湯税対象者の推移】

(人)

	H17	H18	H19	H20
田辺市	462,279	430,203	413,051	387,445
旧田辺市	92,232	89,434	81,931	82,480
旧龍神村	173,628	152,992	145,094	124,465
旧中辺路町	5,476	5,565	4,704	8,236
旧大塔村	10,578	15,617	14,861	12,077
旧本宮町	180,365	166,595	166,461	160,187

資料：各年観光動態調査

【田辺扇ヶ浜海水浴場(7/1~8/31)

の来場者の推移】

(人)

H17	H18	H19	H20	H21
43,351	45,094	46,353	61,181	114,476

資料：各年田辺市観光振興課

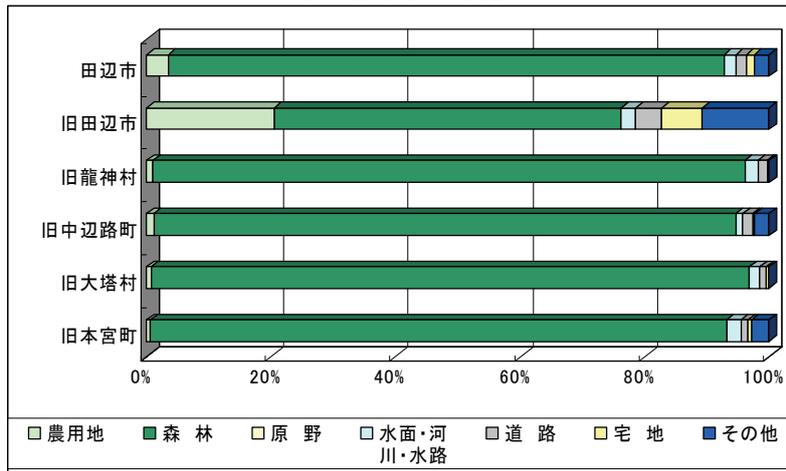
1-4 土地利用と土地利用規制

(1) 土地利用

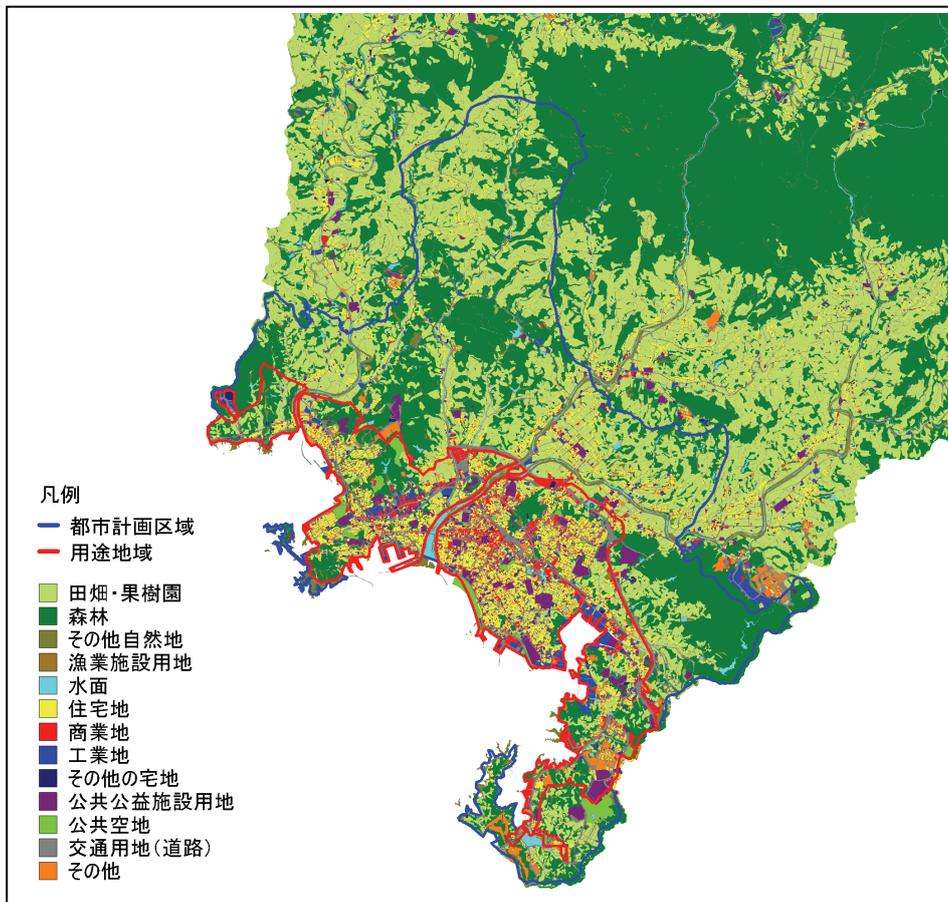
1) 土地利用の現状

田辺市の土地利用状況は、約 89%が森林となっており、都市部である旧田辺市でも約 56%が森林、次いで農用地が約 21%、宅地が約 7%と自然豊かな市となっています。

【土地利用の状況】



資料：田辺市市勢要覧 2008.3



資料：田辺市土地分類調査（平成 15 年）より

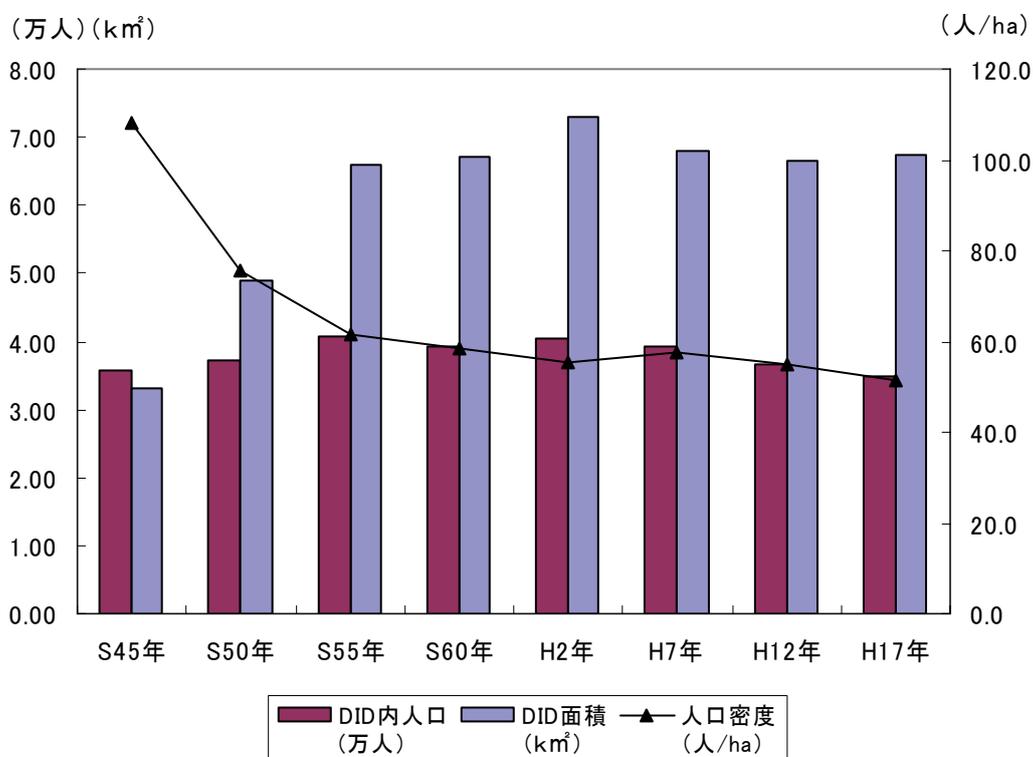
2) 市街化の動向

田辺市の人口集中地区（DID）の推移は、平成2年を頂点に減少傾向となっており、その人口密度は減少傾向となっています。

【人口集中地区の推移】

		S45年	S50年	S55年	S60年	H2年	H7年	H12年	H17年
田辺市	DID内人口 (万人)	3.57	3.71	4.07	3.93	4.04	3.92	3.66	3.48
	DID面積 (km ²)	3.30	4.90	6.60	6.70	7.30	6.80	6.64	6.74
	人口密度 (人/ha)	108.3	75.7	61.7	58.7	55.4	57.6	55.2	51.6

資料：各年国勢調査



都市計画区域の内、用途地域指定の無い区域の容積率・建ぺい率 等
(建築基準法に基づく)

容積率(%)	建ぺい率(%)	道路斜線制限	隣地斜線制限	告示年月日
200%	60%	1.25	1.25	H16.4.9 県告示第506号

特別用途地区

地区名称	面積(ha)	用途地域	目的	制限または緩和	告示年月日
大規模集客施設制限地区	232	準工業地域	大規模集客施設の立地制限	準工業地域全域に指定 床面積の合計が1万平方メートルを超える大規模集客施設の立地を規制	H20.7.24 市告示第146号

臨港地区

臨港地区の名称	港湾の種別	位置	分区内訳	面積(ha)	告示年月日
文里港臨港地区	地方港湾	田辺市文里一丁目 の一部 他	商港区	約7.8ha	H19.6.19市告示第132号

地区計画

地区名	区域計画のねらい	建築物等に関する決定事項	地区計画の決定	備考
銀座地区(約1.1ha)	商店街としての魅力ある街並みを形成する	壁面位置、最高高さ、形態意匠	H14.12.9	条例第161号

②都市施設及び市街地開発事業

	都市施設															市街地開発事業						
	道路	道路 (駅前広場)	都市 高速鉄道	駐 車場	公園	緑地	広 場	墓 園	下水道			供給処理			市場	と 畜場	火 葬場	河 川	学 校	土 地 区 画 整 理 事 業	市 街 地 再 開 発 事 業	
									流 域 下 水 道	公 共 下 水 道	都 市 下 水 路	汚 物 処 理 場	ご み 焼 却 場	そ の 他 の 処 理 施 設								
田辺市 (都市計画区域)																						

都市計画道路（総括）

計画延長 (km)										改良済延長 (km)					概成済延長 (km)					改良率 (%)
自動車 専用道路		幹線街路		区画街路		特殊街路		計		自動車 専用 道路	幹 線 街 路	区 画 街 路	特 殊 街 路	計	自動車 専用 道路	幹 線 街 路	区 画 街 路	特 殊 街 路	計	
路線数	延長	路線数	延長	路線数	延長	路線数	延長	路線数	延長											
1	10.70	13	44.22	-	-	-	-	14	54.92	0	18.98	-	-	18.98	3.90	7.63	-	-	11.53	34.6

都市計画道路

番 号			路 線 名	計 画 決 定				改良済 延長(m)	概成済 延長(m)	備考		
区分	規模	一連 番号		起 点	終 点	車線数	幅員(m)				延長(m)	決 定 年 月 日
1	4	1	高規格幹線道路 南部白浜線	中芳養字千町	新庄町字長井谷		21	10,700	H 8.11.29 県告示第 981号	0	3,900	
3	3	1	国道42号 田辺バイパス	芳養町字佐美	新庄町字田鶴	4	25	9,870	S48. 7.12 県告示第 501号 H12.12.12 県告示第1055号	6,600	0	
3	5	2	芳養磯坂線	芳養町字炭竈	神子浜字磯山		12	5,350	S48. 7.12 県告示第 501号 S61. 1.23 県告示第 33号	0	5,350	
3	4	3	駅前扇ヶ浜線	湊塔之内962-4	湊川原場1764		18	850	S15.12.26 内告示第 648号 S48. 7.11 市告示第 25号	650	200	
3	4	5	元町新庄線	元町字天神原	新庄町字名喜里	2	18	5,273	S15.12.26 内告示第 648号 H14.11. 5 県告示第 948号	1,820	0	
3	5	6	内環状線	上屋敷町	神子浜字下浜田	2	12	3,320	S53.10.13 市告示第 37号 H18.10. 6 県告示第1186号	580	450	
3	5	7	外環状線	秋津町字安井	元町字益穂	2	15	8,550	S48. 7.11 市告示第 25号 H12.12.12 県告示第1058号	3,170	430	
3	6	8	扇ヶ浜秋津線	新屋敷町	秋津町字中芝	2	10	3,200	S48. 7.11 市告示第 25号 H12. 5. 9 県告示第 502号	2,430	120	
3	5	9	扇ヶ浜大戸線	湊川原場1764	神子浜大戸931-5		12	1,470	S15.12.26 内告示第 648号 S48. 7.11 市告示第 25号	0	0	
3	6	10	山崎万呂線	湊山崎1312-3	下万呂759		8	1,050	S15.12.26 内告示第 648号 S48. 7.11 市告示第 25号	0	0	
3	5	11	中屋敷下浜田線	中屋敷町23-1	神子浜下浜田381-38		12	1,360	S15.12.26 内告示第 648号 S48. 7.11 市告示第 25号	230	970	
3	5	12	目良線	元町天神町2410-229	元町出口1789		12	2,190	S15.12.26 内告示第 648号 S48. 7.11 市告示第 25号	1,760	110	
3	4	13	大戸線	神子浜下浜田381-38	神子浜森の内810-12		16	750	S42. 8.25 建告示第2598号 S48. 7.11 市告示第 25号	750	0	
3	4	14	切戸橋稲成線	湊字浄行寺後	稲成町字北江原		16	990	S48. 7.11 市告示第 25号 H 4.11.27 県告示第 794号	990	0	
計			14路線					54,923		18,980	11,530	

駅前広場

駅名	鉄道名	駅前広場面積		計画決定 年月日	都市計画道路名	備考
		計画 (㎡)	併用 (㎡)			
紀伊田辺駅	J R 紀勢本線	5,031	5,031	S39.2.28	3.4.3 駅前扇ヶ浜線	S46 完了 県施行 (街路事業)

自動車駐車場

名称	面積 (ha)	計画 台数	収容 台数	決定年月日	備考
紀伊田辺駅駐車場	0.25	102	102	H6.3.4 市告示第 22号	地上2階2層

都市計画公園 (総括)

計画

合計		住区基幹公園						都市基幹公園				特殊公園						緩衝緑地		緑地		緑道		墓園	
		街区公園		近隣公園		地区公園		総合公園		運動公園		風致公園		歴史公園		その他									
箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
22	48.12	14	2.62	4	5.90	1	4.50	2	29.00	1	6.10														

都市計画公園 (総括)

供用

合計		住区基幹公園						都市基幹公園				特殊公園						緩衝緑地		緑地		緑道		墓園	
		街区公園		近隣公園		地区公園		総合公園		運動公園		風致公園		歴史公園		その他									
箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積	箇所	面積
21	45.78	14	2.62	3	4.10	1	4.50	2	29.00	1	5.56														

都市計画公園

番号			種別	公園名	都市計画 決定面積 (ha)	都市計画決定年月日	開設面積 (ha)
2	2	1	街区	江川公園	0.09	S40.7.31 建造示第2105号 H6.11.24 市告示第 89号	0.09
2	2	2	"	会津公園	0.50	S28.4.11 建造示第 545号	0.50
2	2	4	"	錦水公園	0.25	S30.12.26 建造示第1531号 H6.3.4 市告示第 23号	0.25
2	2	5	"	明洋第1公園	0.12	S50.1.17 県告示第 79号	0.12
2	2	6	"	明洋第2公園	0.31	"	0.31
2	2	7	"	明洋第3公園	0.12	"	0.12
2	2	8	"	明洋第4公園	0.06	"	0.06
2	2	9	"	朝日ヶ丘第1公園	0.12	"	0.12
2	2	10	"	朝日ヶ丘第2公園	0.11	"	0.11
2	2	11	"	末広公園	0.10	S52.8.26 市告示第 30号	0.10
2	2	12	"	芳養公園	0.23	S52.7.20 市告示第 27号	0.23
2	2	13	"	稲成第1公園	0.13	H6.3.4 市告示第 23号	0.13
2	2	14	"	稲成第2公園	0.10	"	0.10
2	2	15	"	東部公園	0.38	H6.11.24 市告示第 89号	0.38
小計				14ヶ所	2.62		2.62
3	3	1	近隣	鬮鷄公園	1.80	S28.4.11 建造示第 545号 S60.1.24 県告示第 36号	0.00
3	3	3	"	朝日ヶ丘北公園	1.10	S50.1.21 県告示第 35号	1.10
3	3	4	"	天神公園	1.40	S52.12.3 県告示第 968号 S56.8.15 県告示第 727号	1.40
3	3	5	"	神楽公園	1.60	S45.5.29 県告示第 14号 H18.6.14 市告示第 132号	1.60
小計				4ヶ所	5.90		4.10
4	4	1	地区	目良公園	4.50	S56.12.5 県告示第1044号	4.50
小計				1ヶ所	4.50		4.50
5	4	1	総合	扇ヶ浜公園	6.00	S28.4.11 県告示第 545号 H3.8.9 県告示第 612号	6.00
5	5	2	"	新庄総合公園	23.00	S60.1.24 県告示第 36号 H14.4.5 県告示第 389号	23.00
小計				2ヶ所	29.00		29.00
6	4	1	運動	三四六公園	6.10	S47.6.6 県告示第 401号 H8.11.29 県告示第 976号	5.56
小計				1ヶ所	6.10		5.56
合計				22ヶ所	48.12		45.78

都市公園（都市公園法に基づく）

公園名	開設面積(ha)	告示年月日
内之浦干潟親水公園	4.64	H11. 4. 1 市告示第36号
橋谷地区防災公園	0.54	H20. 5. 7 市告示第88号

公共下水道

公共下水道施設の 名	計画人口(人)	計画面積 (ha)	供用開始済面積 (ha)	整備率 (%)	決定年月日
田辺市本宮 特定環境保全公共下水道	100	3.7	3.70	100.0	
田辺市龍神 特定環境保全公共下水道	130	9.0	9.00	100.0	

都市下水路

都市下水路名	計画決定			都市計画法事業認可			完・継 の 別
	決定年月日	集水面積 (ha)	総延長 (m)	年月日	期間	延長 (m)	
江川下水路	S30.12.26 建造令第1536号 S37.3.19 建造令第669号	8.0	195	S37.3.19変	S30.12.26～S37.3.31	195	完了
背戸川下水路	S30.12.26 建造令第1536号 S55.2.14 市告示第2号	68.0	2,110	H11.8.24変	S55.2.28～H13.3.31	2,110	完了
小泉下水路	S41.7.23 建造令第2317号 S52.8.26 市告示第29号	66.3	2,190	H12.7.21変	S52.10.6～H16.3.31	2,190	完了
益穂下水路	S45.10.6 市告示第33号	70.0	240	S45.11.5	S45.11.5～S50.3.31	240	完了
大戸川下水路	S51.10.13 市告示第28号	94.0	1,050	S52.1.15	S52.1.15～S57.3.31	1,050	完了

供給処理施設等

名称	位置	面積 (ha)	施設能力	決定年月日	備考
田辺市廃棄物処理場	元町字三四六	約5.6	100 t / 日	S47.6.21 市告示第18号 H4.11.24 市告示第80号	供用済
南紀田辺地方卸売市場	稲成町字南江原	1.8	野菜 95 t / 日 果物 120 t / 日	S55.12.5 市告示第38号	〃
田辺市斎場	元町字中之谷	1.2	5体 / 日	H3.3.2 市告示第19号	〃
田辺市周辺衛生施設組合 し尿処理場	新庄町字長井谷	2.6	112kℓ / 日	H4.3.11 市告示第9号	〃

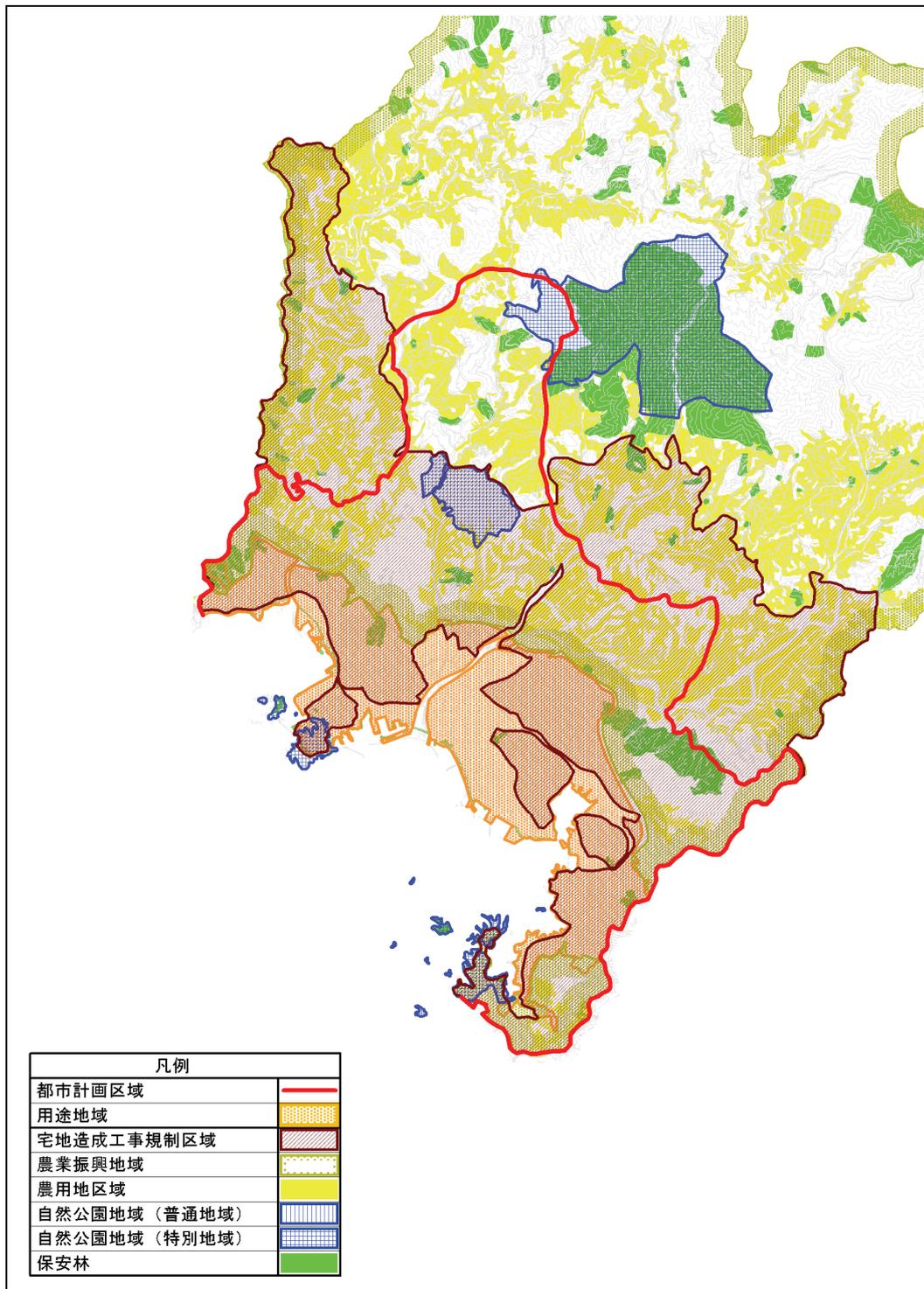
土地区画整理事業

地区名	事業主体	都市計画決定		事業決定		事業期間
		面積(ha)	年月日	面積(ha)	年月日	
荒光	組合	-	-	7.45	H1.11.10	H1～H5
銀座	市	1.20	H6.11.24 市告示第91号	1.21	H7.7.5	H7～H12
アオイ	〃	0.60	H6.11.24 市告示第90号	0.64	H7.8.22	H7～H12
海蔵寺	〃	1.50	H14.10.10 市告示第156号	1.50	H15.10.31	H15～H21
合計		3.30		10.75		

2) 主な土地利用規制

主な土地利用規制は、都市計画区域及び用途地域などのほか、宅地造成工事規制区域、農用地区域、保安林などの法規制が指定されています。

【法適用現況図】



1-5 主要プロジェクト

現在、田辺市内において進行中の都市計画分野の主要プロジェクトは以下のとおりです。

(1) 近畿自動車道紀勢線整備事業（田辺～すさみ間）

○事業概要 近畿自動車道紀勢線の南紀田辺インターチェンジ以南の区間を整備する事業です。近畿自動車道紀勢線は、京阪神都市圏と紀南を結ぶ幹線道路として、輸送時間の短縮や一般道の混雑緩和を図り、地域相互の産業、経済文化、観光の振興と発展に寄与するとともに、災害や救急等、緊急時の通行ルートとして周辺地域住民の安心できる暮らしを確保するために整備が必要な道路です。

○事業期間 平成 10 年 12 月
（施工命令）～



(2) 国道 42 号田辺西バイパス整備事業

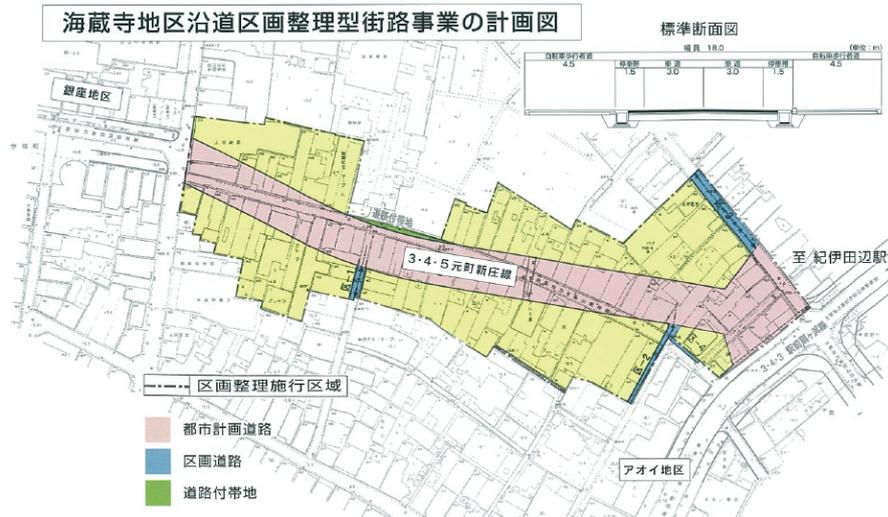
○事業概要 国道 42 号田辺西バイパス稲成ランプの西に続く芳養町までの区間において、一般国道 42 号のバイパスとして整備する事業であり、市内の交通混雑などの問題を解消するとともに、周辺地域との連絡を強化することを目的としています。なお、平成 19 年 1 月には、国道 42 号田辺西バイパスから近畿自動車道紀勢線南紀田辺インターチェンジへ連絡する 600m 区間が一部供用開始されています。

○事業期間 平成 9 年度～



(3) 海蔵寺地区沿道区画整理型街路事業

- 事業概要 中心市街地を東西に通る幹線道路である都市計画道路元町新庄線とその沿道市街地を同時に整備する事業であり、中心市街地への誘導ルートの強化、中心市街地内の回遊性の向上及び沿道商店街の魅力の向上などにより、中心市街地の活性化に資することを目的としています。
- 事業期間 平成 15 年度～平成 21 年度



(4) 都市計画道路元町新庄線整備事業

- 事業概要 中心市街地を東西に通る幹線道路である都市計画道路元町新庄線のうち、海蔵寺地区に連続する礫坂方面の一部区間を整備する事業であり、交通の円滑化、中心市街地への誘導ルートの強化、中心市街地内の回遊性の向上などにより、中心市街地の活性化や東西方向の連絡強化を目的としています。
- 事業期間 平成 21 年度～

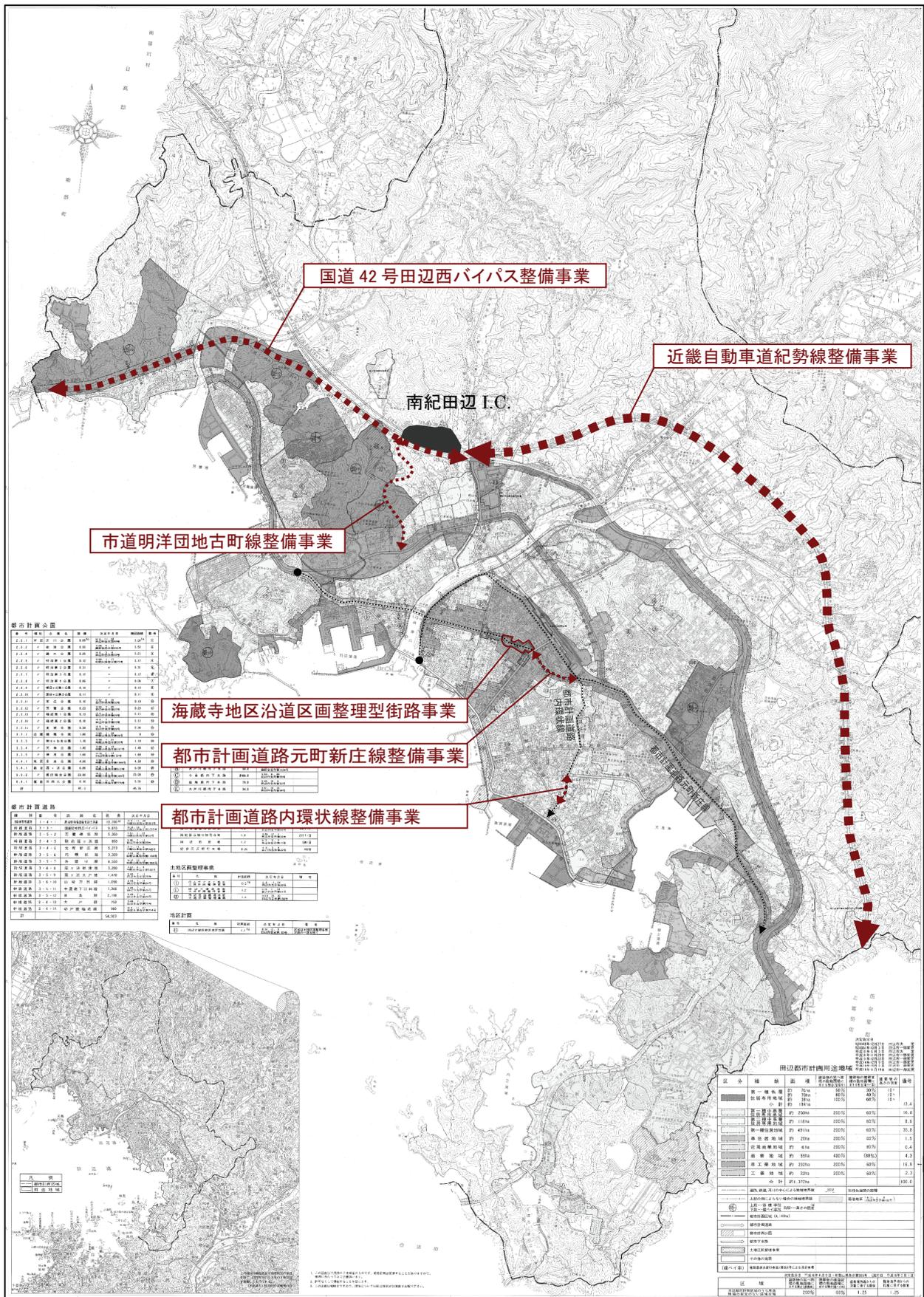
(5) 都市計画道路内環状線整備事業

- 事業概要 中心市街地を取り巻く都市計画道路内環状線のうち、東部地域の一部区間を整備する事業であり、交通混雑の緩和と通学路としての安全の確保のほか、災害時の物資の運搬路及び避難路を確保することを目的としています。
- 事業期間 平成 18 年度～平成 23 年度

(6) 市道明洋団地古町線整備事業

- 事業概要 国道 42 号上の山交差点から、近畿自動車道南紀田辺インターチェンジ及び国道 42 号田辺西バイパスを結ぶ道路を整備する事業であり、市民の広域交通の利便性向上や市街地内への円滑な交通流の誘導を図ることを目的としています。
- 事業期間 平成 14 年度～平成 22 年度

【主要プロジェクトの位置】



1-6 住民意向

(1) 調査概要

田辺市都市計画マスタープランの策定にあたっての基礎資料とするため、市民の皆さま及び市内に通学している高校生を対象としたアンケート調査を実施しました。

1) 市民アンケート

今後のまちづくりの指針としていくため、市民の皆さまの目線から見た「まちの将来像」を把握し、その実現に向けて何をすべきかを検討する手掛かりとするため、アンケートを実施しました。

これは市民の皆さまが、最も重視している目標像が何かを明確にし、その実現のために何をすべきかを検討することを大きな目的の一つにしています。

特に、地域の「生活環境」に対する現状での満足度と今後の取り組みに対する重要度について把握し、これから取り組んでいく施策の優先性を検討するための参考とします。概要については以下のとおりとなっています。

①対象者

田辺市在住の市民を対象に住民基本台帳から地域毎の人口比率に応じた数無作為で 2,000 票を抽出しました。

②調査実施日

調査実施期間：平成 20 年 10 月 10 日～平成 20 年 11 月 10 日

(アンケート回収期限を平成 20 年 10 月 20 日とし、その後、アンケート回答のお礼とお願いを兼ねたハガキを配布し、平成 20 年 11 月 10 日まで回収)

③調査方法

対象者にアンケート票を郵送による配布を行い、郵送による回収を行いました。

④回収状況

回答数：905 票 、 回収率：45.3%

⑤調査項目

- ・ 回答者のプロフィール（性別、年齢、職業、居住地域、居住年数）
- ・ 田辺市の良いところ、悪いところ（現状）
- ・ 地域毎の現状（生活環境の満足度、重要度）
- ・ 今後の居住について
- ・ 田辺市の将来に望むこと（期待する将来イメージ、期待する取り組み）
- ・ 地域毎の将来に望むこと（まちづくり分野毎）
- ・ 自由意見

2) 高校生アンケート

今後のまちづくりの指針としていくため、将来の田辺市を担っていただく高校生の皆さまの目線から見た「まちの将来像」を把握し、その実現に向けて何をすべきかを検討する手掛かりとするため、アンケートを実施しました。

①対象者

田辺市のまちなかに立地する、田辺高校、神島高校、田辺工業高校、南紀高校（昼間部・夜間部）を対象高校とし、各高校それぞれ来年度より大学進学、就職等に進まれる最高学年全員を対象としました。（南紀高校については、同世代の学生を対象）

②調査実施日

配布期間：平成20年10月10日～平成20年10月22日

※それぞれの学校での実施のため調査実施日が異なる

③調査方法

対象高校にご協力いただき、それぞれホームルーム等を利用して配布し、記入後回収しました。

④回収状況

回答数：834票、回収率：97.9%

⑤調査項目

- ・ 回答者のプロフィール（性別、居住地域、通学のための主な交通手段）
- ・ 田辺市の良いところ（現状）
- ・ 今後の居住について
- ・ 田辺市の将来に望むこと（期待する将来イメージ）
- ・ 定住施策
- ・ 自由意見

(2) 結果概要

アンケート調査結果をまとめると以下ようになります。

①お住まいの地域の生活環境について(5段階評価)：市民アンケート

お住まいの地域の生活環境について満足度と重要度で5段階評価したところ、満足度が低く、重要度が高い項目は、「身近にある道路の整備状況」、「歩行者や自転車にとっての道路の安全性」、「洪水や火災など災害時の安全対策」、「病院や診療所などの医療環境」、「高齢者等に配慮した施設整備（バリアフリー）」、「まちの活気・活力」となりました。

生活環境	満足度	重要度
1) 身近にある道路の整備状況	2.80	3.61
2) 歩行者や自転車にとっての道路の安全性	2.29	3.81
3) 電車・バスなどの公共交通の便利さ	2.27	3.44
4) 水道などの生活用水の対策	3.40	3.63
5) 家庭からの排水・雨水の対策	2.94	3.63
6) ゴミやし尿の処理対策	3.16	3.71
7) 騒音や悪臭などの公害対策	3.11	3.45
8) 洪水や火災など災害時の安全対策	2.75	3.93
9) 日用品の買物の便利さ	3.03	3.46
10) 家具、電化製品等の買物の便利さ	2.84	3.23
11) 病院や診療所などの医療環境	2.87	3.95
12) デイサービスなどの福祉環境	3.00	3.61
13) 保育所などの配置状況や子育て支援環境	2.96	3.56
14) 公園や子供の遊び場の整備状況	2.63	3.53
15) スポーツ・レクリエーション施設などの整備状況	2.70	3.25
16) 小学校などの教育施設の整備状況	3.00	3.54
17) 公民館・集会所などの整備状況	3.13	3.23
18) 山・川・海などの自然環境	3.43	3.56
19) まちなみの美しさ(景観)	2.96	3.36
20) 高齢者等に配慮した施設整備(バリアフリー)	2.57	3.74
21) ご近所の人と人とのつながり	3.19	3.48
22) まちの活気・活力	2.37	3.74
23) 総合的に考えた身の回りの環境	2.93	3.57
平均	2.88	3.57

* 背景色付・・・満足度(平均以下)、重要度(平均以上)、
 * 数字色付・・・満足度上位3項目・満足度下位3項目
 重要度上位3項目・重要度下位3項目

②定住意向について:市民、高校生アンケート

定住については、市民アンケートでは、「今住んでいる場所に住み続けたい」の項目が全体の約6割と最も多く、高校生アンケートでは全体の約1割となりました。

高校生アンケートで最も多かった項目は、「一旦市を出るが、いずれ田辺市に帰ってきたい」となりました。

		単位(%)	
		市民	高校生
1	今住んでいる場所に住み続けたい	61.0	12.6
2	一旦市を出るが、いずれ田辺市に帰ってきたい	1.7	31.9
3	他の地域に移りたい	11.8	24.4
4	わからない	21.4	28.4
5	その他	1.5	1.1
-	無記入・無効	2.5	1.5
-	サンプル数(人)	905	524

③転出希望先について:市民、高校生アンケート

転出希望のある、「他の地域に移りたい」と回答した中で、具体的な転出先の希望については、市民アンケート、高校生アンケートともに、「まちに魅力があるため」、「働く場所があるため」といった項目が多くなりました。

		単位(%)	
		市民	高校生
1	まちに魅力があるため	17.9	42.6
2	通勤・通学に便利であるため	10.3	9.3
3	働く場所があるため	16.7	20.4
4	買い物など日常生活が便利であるため	11.5	12.0
5	教育・文化の環境が充実しているため	2.6	5.6
6	保健・医療・福祉が充実しているため	5.1	0.0
7	防災上安全と感じているため	15.4	0.0
8	自然環境が豊かであるため	12.8	2.8
9	その他	5.1	7.4
-	無記入・無効	2.6	0.0
-	サンプル数(人)	78	108

④田辺市の現状のイメージ:市民、高校生アンケート

田辺市の現状のイメージとしては、市民アンケート、高校生アンケートともに、良いイメージとして「自然環境」が最も多くなりました。また、市民アンケートでは、「買い物など日常生活の便利さ」が良い項目として多いものの、「商業の活力」は悪い項目として多くなりました。更に、「まちの個性（歴史や伝統）」は、市民アンケートでは悪い項目となっているものの、高校生アンケートでは良い項目になっています。

		単位(%)		
		市民	高校生	市民
		現状の 良いところ	現在の 市の魅力	現状の 悪いところ
1	自然環境	76.2	64.9	2.3
2	まち個性(歴史や伝統)	23.5	37.8	29.3
3	通勤・通学など交通の便	12.7	7.0	15.7
4	身近な道路や公園整状況	9.1	7.6	13.3
5	下水道の整備状況	4.6	4.0	17.0
6	買い物など日常生活の便利さ	40.3	12.5	11.5
7	商業の活力	0.3	1.1	45.3
8	工業の活力	0.1	1.4	18.2
9	農林漁業の活力	5.6	14.4	20.9
10	観光・レクリエーションの活力・魅力	3.3	5.3	13.5
11	教育・文化の充実度	1.9	2.8	6.6
12	保健・医療・福祉の充実度	9.2	2.8	15.2
13	地震、洪水などの防災に対する安心さ	3.8	3.4	19.2
14	人情味があり地域社会のつながり	25.9	19.3	4.8
15	まちづくりへの住民参加状況	4.1	7.4	9.7
16	その他	3.4	4.2	2.3
-	無記入・無効	3.5	3.8	6.3
-	サンプル数(人)	905	834	905

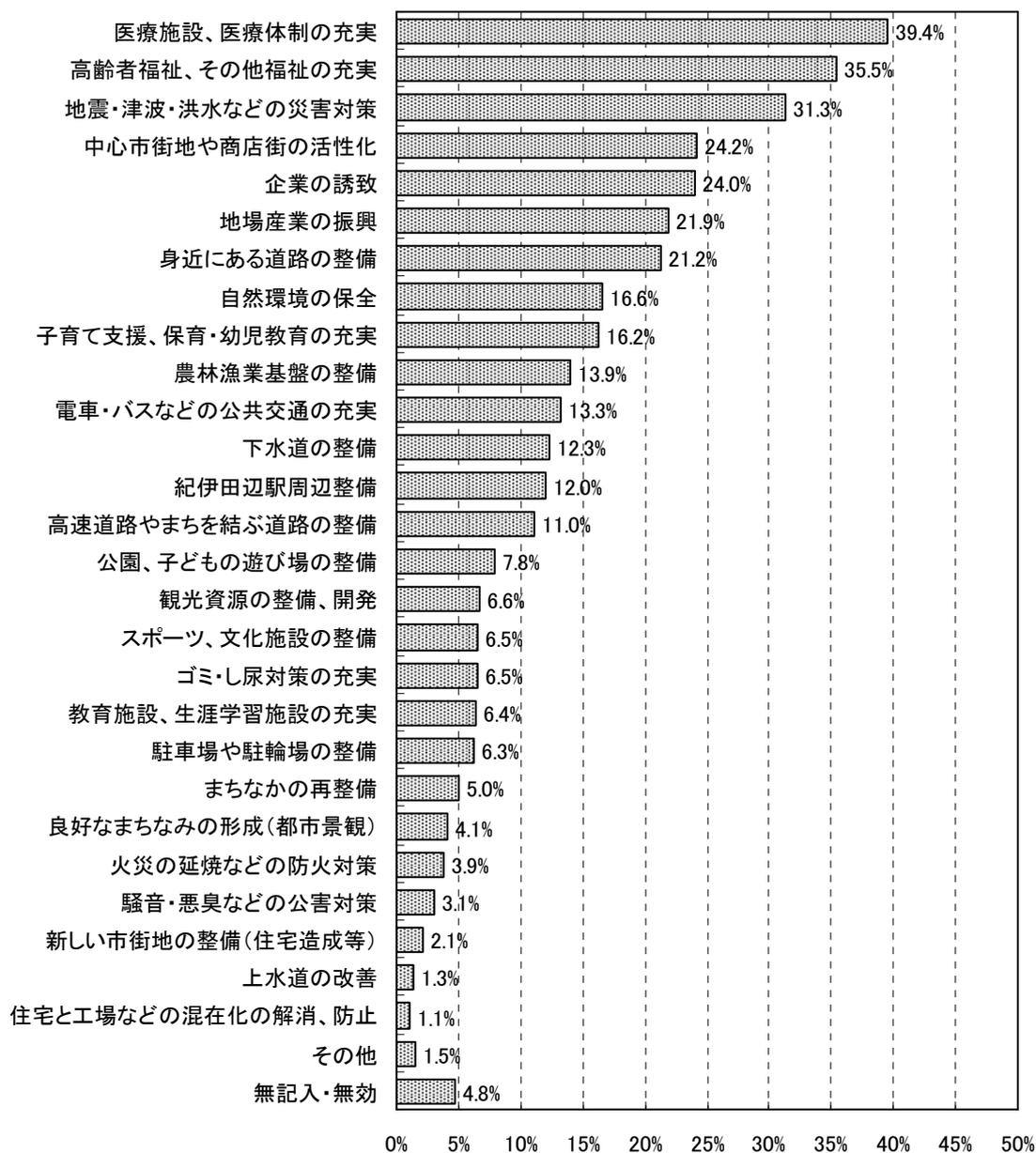
⑤田辺市の将来イメージ:市民、高校生アンケート

田辺市の将来のイメージとしては、市民アンケート、高校生アンケートともに、「豊かな自然環境を大切にすまち」が最も多くなりました。また、商業と安全といったキーワードで多かった項目を整理すると、商業では、市民アンケートが「商業の盛んな活力あるまち」に対して高校生アンケートが「買い物など日常生活が便利なまち」が多く、安全では、市民アンケートが「保健・医療・福祉の充実したまち」に対して高校生アンケートが「地震、洪水などの防災に対する安心感があるまち」と違いが見られます。

		単位(%)	
		市民	高校生
		望む 将来像	望む 将来像
1	豊かな自然環境を大切にすまち	48.0	44.8
2	歴史や伝統といった個性を大切にすまち	12.8	18.5
3	通勤・通学など交通の便のよいまち	11.5	21.8
4	身近な道路や公園などが整ったまち	9.9	8.0
5	下水道が整ったまち	9.9	5.6
6	買い物など日常生活が便利なまち	18.7	32.7
7	商業の盛んな活力あるまち	24.9	11.6
8	工業の盛んな活力あるまち	8.2	2.5
9	農林漁業の盛んな活力あるまち	19.8	4.2
10	観光・レクリエーションの盛んな活力あるまち	9.0	15.0
11	教育・文化の充実したまち	10.9	8.8
12	保健・医療・福祉の充実したまち	46.5	18.3
13	地震、洪水などの防災に対する安心感があるまち	23.2	25.1
14	人情味があり地域社会のつながりが充実しているまち	17.3	15.5
15	まちづくりへの住民参加が盛んなまち	3.8	5.6
16	その他	0.9	3.1
-	無記入・無効	5.2	2.8
-	サンプル数(人)	905	834

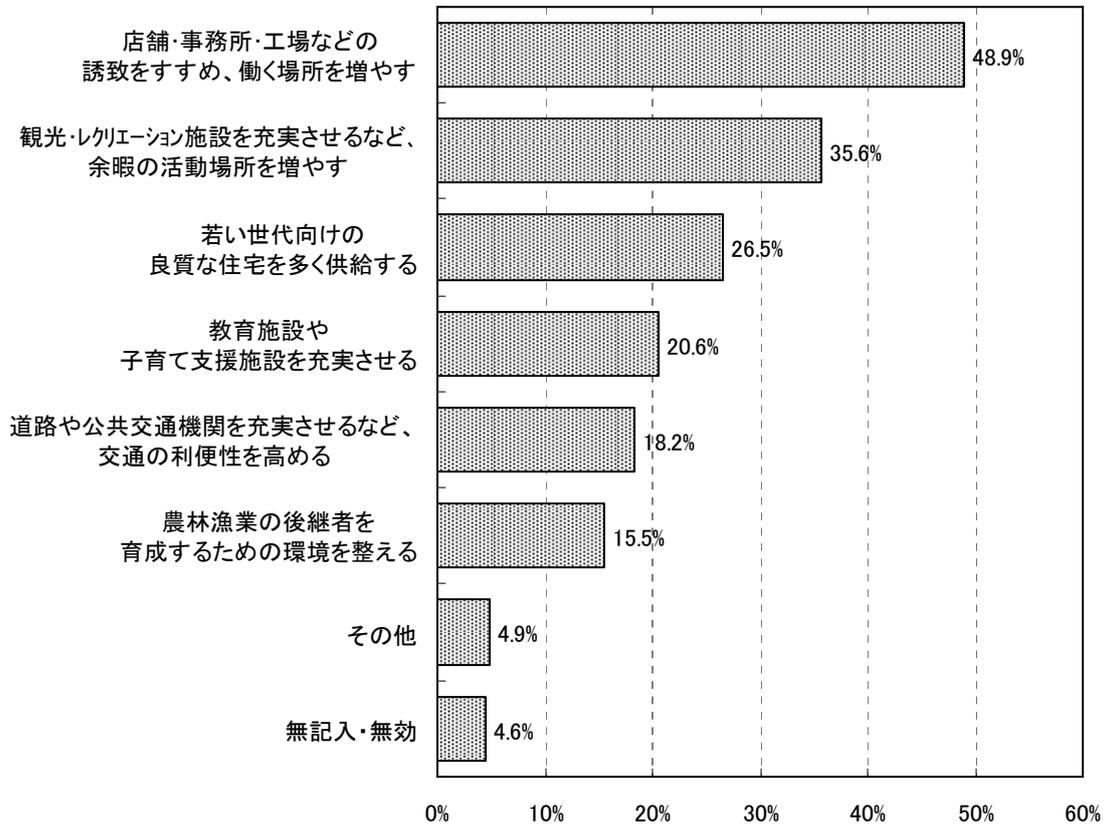
⑥取り組んでほしい施策について：市民アンケート

取り組んでほしい施策としては、「医療施設・医療体制の充実」が全体の約4割で最も高く、次いで「高齢者福祉・その他福祉の充実」「地震・津波・洪水などの災害対策」「中心市街地や商店街の活性化」となっています。



⑦必要な定住施策について:高校生アンケート

必要な定住施策としては、「店舗・事務所・工場などの誘致をすすめ、働く場所を増やす」が5割近くで最も高く、次いで「観光・レクリエーション施設を充実させるなど、余暇の活動場所を増やす」が全体の約4割、続いて「若い世代向けの良質な住宅を多く供給する」が全体の約3割となっています。



⑧主な自由意見について:市民、高校生アンケート

自由意見を分類すると、「高齢者・若者」、「まちづくり」、「自然・環境・景観」が主なキーワードとなります。

(市民)田辺市のまちづくりについて考えていること、重要だと思うことなど

項目	件数	内容
高齢者・若者	54	少子高齢化対策、若者に魅力を感じさせる、高齢者対策 等
まちづくり	50	紀伊田辺駅周辺整備、中心市街地活性化、人を大事にした取組み 等
道路・歩道整備	48	道路拡幅、歩道整備、渋滞緩和 等
商業振興・娯楽施設等	47	駅前商店街活性化、大規模商業施設、レジャー施設 等
自然・環境・景観	41	自然保護、環境保護、森林保全、家庭ゴミの焼却問題 等

(高校生)自分が田辺市長になったとイメージして、田辺市のまちづくりについて考えていること、重要だと思うことなど

項目	件数	内容
自然・環境・景観	92	田辺の自然は素晴らしい、緑が豊かで住みやすいまち 等
商業振興・娯楽施設等	72	大規模なショッピングセンターをつくる、若者向けの店を増やす 等
まちづくり	54	活気あるまち、明るいまち、住みやすいまち、魅力あるまち 等
行財政取組	43	住民の意見を聞く、税金を正しく使う、無駄づかいしない 等
公共交通	42	交通の便が悪すぎる、バスが不便、電車の本数が少ない 等

2 まちづくりの課題

2-1 まちづくりの課題設定の流れ

(1) 基本的な考え方

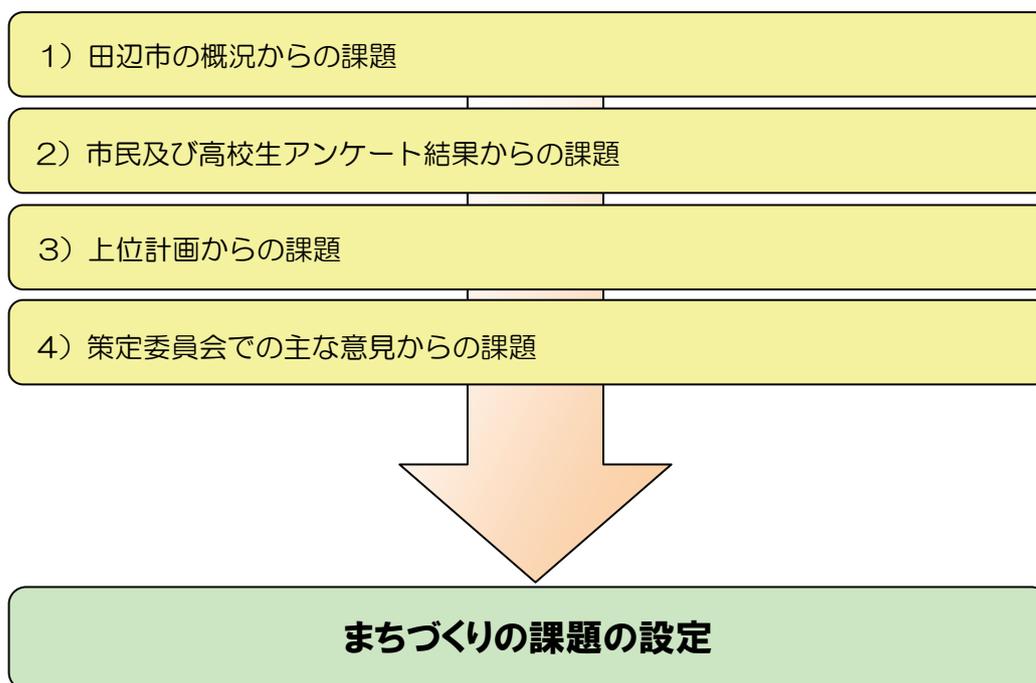
我が国は近年、「地球環境問題への対応」や「少子高齢社会への移行」、「人口減少時代の到来」、「防災・減災への意識の向上」など、様々なまちづくりへの問題や課題の対応が求められています。これらの問題に対し、限られた財源の中での自治体運営の中で、「選択と集中」による効果的なまちづくりを進めていくことが重要となっています。

このことは、田辺市においても例外ではなく、多種多様化しているまちづくりの課題を的確に抽出した上で、課題を系統的にまとめることにより、必要な取り組みを効果的に実現していくことが必要です。

これを踏まえ、田辺市のまちづくりの課題設定にあたっては、様々な視点からの課題をまちづくりのキーワードとして整理したうえで、まちづくりの課題を体系的にまとめることとします。

(2) 課題設定について

まちづくりの課題設定については、以下に示す様々な視点から課題を抽出し設定します。



(3) 様々な視点からの課題

1) 田辺市の概況からの課題

項目	内容
広域的な位置づけ	紀南地域の中心都市であり、大都市への交通の便も比較的便利な都市
人口・世帯数 ・高齢化率	人口は減少傾向であるものの、世帯数は増加傾向、高齢化率は全国平均や和歌山県平均に比べ高く、増加傾向にある。中心市街地の高齢化率は市平均に比べ高い。
産業	第3次産業が増加傾向、事業所数・従業者数は減少傾向であり、商業・工業とも減少傾向にある。
交通	海岸沿いの平野部に一般国道が集中、南紀田辺 I.C.開設により利便性が向上している。従業・通学の人動きは、約9割が自市内である。鉄道については乗降客が減少傾向であり、バスについては市内を網羅しているが、本数は少ない。
公共公益施設	様々な公共公益施設が市内に分散
観光	観光客数は増加しているものの、宿泊客が減少、日帰り客が増加
土地利用	9割以上が農用地や森林などの自然的土地利用



【まちづくりのキーワード】

- 少子高齢社会への対応
- 中心市街地の空洞化への対応
- 商業の維持・向上
- 工業の維持・向上
- 交通ネットワークの確立
- 観光振興、観光資源の活用
- 自然環境の保全・活用
- 既存市街地（宅地、施設など）の効率的な利用

2) 市民及び高校生アンケート結果からの課題

項目	内容
産業	商業の盛んな活力あるまち、中心市街地や商店街の活性化、地元工業の活性化、働く場所を増やす
公共公益施設	身近な公園や道路整備、道路の安全性
土地利用	住環境を守るための住宅地、商業地・工業地等のメリハリある土地利用規制、農地の保全
自然	豊かな自然環境の保全
保健・医療 ・福祉・子育て	保健・医療・福祉などの充実、バリアフリー化
観光・レクリエーション	自然環境を活かした施設整備、余暇の活動場所を増やす
災害	地震・津波・洪水などの災害対策
景観	自然と調和した景観
生活環境	定住のための良質な住宅供給、既存住宅地における住環境改善
その他	まちの魅力、個性、活力



【まちづくりのキーワード】

- 中心市街地の活性化
- 商業の活性化
- 工業の活性化
- 住環境の整備・向上
- 自然環境の保全・活用
- 保健・医療・福祉の充実（バリアフリー）
- 観光振興、観光資源の活用
- 自然環境に配慮した景観形成
- 地震・津波・洪水などの災害への対応

3) 上位計画からの課題

田辺都市計画区域マスタープラン（平成 16 年 5 月）
太陽と大洋^{として} & 確かな都市機能が融和した紀南中核圏域 <ul style="list-style-type: none">●「田辺」を中心として生活拠点群がネットワークする圏域●温泉・まち・農・海・森を活かす体験交流圏域●優れた農業と海山の幸を活かす、あじわい発信圏域 （基本理念） <ul style="list-style-type: none">・コンパクトなまちづくり・交流による活力あるまちづくり・安全・安心なまちづくり・環境共生のまちづくり・ひと・コミュニティを育むまちづくり

第 1 次田辺市総合計画（平成 19 年 3 月）
「自然と歴史を生かした 新地方都市 田辺」 <ul style="list-style-type: none">・人をはぐくむまち・安心して暮らせるまち・安全で住みよいまち・活力みなぎる産業のまち・快適な環境のまち・市民と行政が共につくるまち

国土利用計画（和歌山県計画）（平成 21 年 3 月）
<ul style="list-style-type: none">・コンパクトなまちづくり・災害に強い都市構造の形成・美しくゆとりある環境の形成・地域の特性を踏まえた生活環境の整備・無秩序な転用を抑制し、実情に即した計画的土地利用・自然環境を保全すべき地域は、適正に保全・適正な管理の下で、自然体験学習の場として利用・都市と農山漁村との適切な関係構築



【まちづくりのキーワード】 <ul style="list-style-type: none">○集約型都市構造（コンパクトシティ）への対応○生活拠点群の結節化○交流のための都市基盤づくり○観光資源の活用○安全・安心への対応○環境共生への対応○快適な都市環境づくり○地域社会の活性化

4) 策定委員会での主な意見からの課題

主な意見	意見の類型とまとめ	対応課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生の定住意向に應えるために、住む場所、働く場所を如何に提供していくかを検討すべき。 ・ 旧市街地に住める条件を整えることで、郊外の市街化も少なくなる。 ・ 旧市街地の空き地の活用も検討すべき。定期借地なども考えられる。 ・ 交流人口や定住人口を如何に増やすかを考えることも重要。 ・ 高齢者が安心して生活できるような都市計画を検討すべき。(交通の利便性の向上など) ・ コンパクトシティ化とは、必ずしも中心市街地に集約することばかりではない。 ・ 都市計画区域内外で住宅の耐震性に大きな差がある。都市計画区域外でも何らかの審査が必要。 ・ コンパクトシティは、空洞化し活力が低下している中心市街地を、まちの核として活性化するための1つの手法である。 ・ 定住のためには、まちの魅力が重要であり、それは今あるものを如何に活かすかだと思う。 ・ 山や海岸など田辺の良さを、日本全国や世界に向け発信することで、若者世代が移り住んでくれたらいいと思う。 ・ 町内会活動は活発と感じている。 ・ 行政と住民が如何に協力してまちづくりを行うか考えるべき。 ・ 田辺は食べ物もおいしくていいところ。田辺のまちの「大きさ」や「まとまり」は、ちょうどいい。 ・ 如何に安全に安心して、楽しく暮らせるまちができるかを検討したい。 ・ まちをつかっていくのは市民。市民が主体となりやすいシステムを行政が作っていくことが大切。 ・ 自然環境を活かし、まず来て、次に一時居住して、最終的に定住して頂くようなシステムを考えることも1つだと思う。 ・ 土地利用の規制緩和を検討する場合には、乱開発に対する注意が必要。 	若者等の定住促進の方策 <ul style="list-style-type: none"> ・ 住む場所、住める条件、働く場所の必要性 ・ 自然環境などのまちの魅力を活かす必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○快適な住環境の形成 ○商業・工業など産業の活性化 ○豊かな自然環境の保全・活用 ○景観(自然・歴史文化)の保全・形成
	コンパクトシティの概念 <ul style="list-style-type: none"> ・ 旧市街地などの既存のまちやモノを有効に活かした、むやみにまちを広げない無駄のないまちづくりの必要性 ・ 乱開発への注意の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○集約型都市構造に向けた中心市街地の活性化と効率的な市街地の形成 ○機能的な交通ネットワークの形成と連携
	高齢者への配慮 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通利便性向上など高齢者の安心の確保の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○機能的な交通ネットワークの形成と連携 ○保健・医療・福祉等の充実 ○地域社会の活性化・育成
	安全性の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の耐震性確保など安全性の確保の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○地震・津波・洪水など災害への対応
	協働のまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民によるまちづくりと、市民と行政の協働の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会の活性化・育成
交流人口の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然、食べ物などの田辺の良さの発信の必要性 ・ まず来てもらう必要性 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光・交流の充実 ○豊かな自然環境の保全・活用 ○景観(自然・歴史文化)の保全・形成 	

2-2 まちづくりの課題の設定

これまでのまちづくりのキーワードと策定委員会からの意見を踏まえ、まちづくりの課題を3つにまとめ、それぞれの対応課題を設定します。

【課題の体系的まとめ】

①安全で安心なまちづくり

- 地震・津波・洪水など災害への対応
- 保健・医療・福祉等の充実
- 地域社会の活性化・育成

②地域活力が連携した快適で効率的なまちづくり

- 集約型都市構造（コンパクトシティ）に向けた中心市街地の活性化と効率的な市街地の形成
- 商業・工業など産業の活性化
- 快適な住環境の形成
- 機能的な交通ネットワークの形成と連携

③個性的で魅力あるまちづくり

- 豊かな自然環境の保全・活用
- 景観（自然環境・歴史文化など）の保全・形成
- 観光・交流の充実

田辺市の概況

- 【広域的な位置づけ】**
紀南地域の中心都市であり、大都市への交通の便も比較的便利な都市
- 【人口・世帯数・高齢化率】**
人口は減少傾向であるものの、世帯数は増加傾向、高齢化率は全国平均や和歌山県平均に比べ高く、増加傾向にある。中心市街地の高齢化率は市平均に比べ高い。
- 【産業】**
第3次産業が増加傾向、事業所数・従業者数は減少傾向であり、商業・工業とも減少傾向にある。
- 【交通】**
海岸沿いの平野部に一般国道が集中、南紀田辺 I.C.開設により利便性が向上している。従業・通学の人動きは、約9割が自市内である。鉄道については乗降客が減少傾向であり、バスについては市内を網羅しているが、本数は少ない。
- 【公共公益施設】**
様々な公共公益施設が市内に分散
- 【観光】**
観光客数は増加しているものの、宿泊客が減少、日帰り客が増加
- 【土地利用】**
9割以上が農用地や森林などの自然的土地利用

アンケート結果

- 【産業】**
商業の盛んな活力あるまち、中心市街地や商店街の活性化、地元工業の活性化、働く場所を増やす
- 【公共公益施設】**
身近な公園や道路整備、道路の安全性
- 【土地利用】**
住環境を守るための住宅地、商業地・工業地等のメリハリある土地利用規制、農地の保全
- 【自然】**
豊かな自然環境の保全
- 【保健・医療・福祉・子育て】**
保健・医療・福祉などの充実、バリアフリー化
- 【観光・レクリエーション】**
自然環境を活かした施設整備、余暇の活動場所を増やす
- 【災害】**
地震・津波・洪水などの災害対策
- 【景観】**
自然と調和した景観
- 【生活環境】**
定住のための良質な住宅供給、既存住宅地における住環境改善
- 【その他】**
まちの魅力、個性、活力

上位計画

- 【田辺都市計画区域マスタープラン】**
太陽と大洋^{として}確かな都市機能が融和した紀南中核圏域
●「田辺」を中心として生活拠点群がネットワークする圏域
●温泉・まち・農・海・森を活かす体験交流圏域
●優れた農業と海山の幸を活かす、あじわい発信圏域
(基本理念)
・コンパクトなまちづくり
・交流による活力あるまちづくり
・安全・安心なまちづくり
・環境共生のまちづくり
・ひと・コミュニティを育むまちづくり
- 【第1次田辺市総合計画】**
「自然と歴史を生かした 新地方都市 田辺」
・人をはぐくむまち
・安心して暮らせるまち
・安全で住みよいまち
・活力みなぎる産業のまち
・快適な環境のまち
・市民と行政が共につくるまち
- 【国土利用計画(和歌山県計画)】**
・コンパクトなまちづくり
・災害に強い都市構造の形成
・美しくゆとりある環境の形成
・地域の特性を踏まえた生活環境の整備
・無秩序な転用を抑制し、実情に即した計画的土地利用
・自然環境を保全すべき地域は、適正に保全
・適正な管理の下で、自然体験学習の場として利用
・都市と農山漁村との適切な関係構築



【まちづくりのキーワード】

- 少子高齢社会への対応
- 中心市街地の空洞化への対応
- 商業の維持・向上
- 工業の維持・向上
- 交通ネットワークの確立
- 観光振興、観光資源の活用
- 自然環境の保全・活用
- 既存市街地(宅地、施設など)の効率的な利用

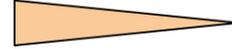
【まちづくりのキーワード】

- 中心市街地の活性化
- 商業の活性化
- 工業の活性化
- 住環境の整備・向上
- 自然環境の保全・活用
- 保健・医療・福祉の充実(バリアフリー)
- 観光振興、観光資源の活用
- 自然環境に配慮した景観形成
- 地震・津波・洪水などの災害への対応

【まちづくりのキーワード】

- 集約型都市構造(コンパクトシティ)への対応
- 生活拠点群の結節化
- 交流のための都市基盤づくり
- 観光資源の活用
- 安全・安心への対応
- 環境共生への対応
- 快適な都市環境づくり
- 地域社会の活性化

策定委員会での主な意見



【課題の体系的まとめ】

①安全で安心なまちづくり

- 地震・津波・洪水など災害への対応
- 保健・医療・福祉等の充実
- 地域社会の活性化・育成

②地域活力が連携した快適で効率的なまちづくり

- 集約型都市構造(コンパクトシティ)に向けた中心市街地の活性化と効率的な市街地の形成
- 商業・工業など産業の活性化
- 快適な住環境の形成
- 機能的な交通ネットワークの形成と連携

③個性的で魅力あるまちづくり

- 豊かな自然環境の保全・活用
- 景観(自然環境・歴史文化など)の保全・形成
- 観光・交流の充実